

Catch the eye 2015年6月

2015/6/3 ひと役
(水)

ひょっとして近畿も梅雨入りか、昨日の夜から雨。気温は低くなった。クーラーが効きすぎる。ぱさぱさ感のあった紫陽花が瑞々しくビルの谷間を彩る。この花は都会慣れして、街なかでしっかり生きている。

昨夕 「もしご存知なら・・・」と、ダメもとで届いたメール。仕事とは関係ないことなので、そのまま返してもよかった。ただ丁寧な仕事ぶりの先方の顔が浮かんた。それ以上に、1月の鳩のことがある。少々の労は惜しまないようにしよう、今年はそのようなのだと想ったのだった。

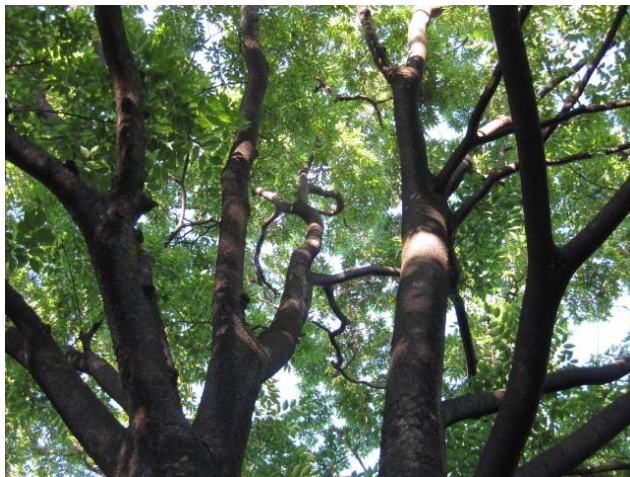
“あの人ならツテがあるかも・・・”、10数年会っていない知人のことを思い出した。会ってはいないが活動ぶりは知っている。ホームページも開いてみる。電話をする。声も話し方も変わっていないし、突然の問合せにもすぐに応えてくれて、互いの近況を報告し合うことができた。

最初の段階で自分自分が応じなかったからといって、不義理になることではなかった。10数年ぶりに連絡した知人はなおさらだ。誰かが誰かのためにちょっと一役買う。一緒に買ってくれる人もいる。そういう風にして事は成っていく。そう再認識し、すぐに届いたお礼メールに清涼感。

2015/6/4 梅雨の晴れ間
(木)

気温も低く、初夏の清々しい日がもどったこの日、そのまま帰るのは惜しい。日も長い。そこで夕暮れ散歩。







2015/6/8 歌、詩
(月)

♪You got a fast car...♪。ラジオのスイッチを入れたとたん、トレーシー・チャップマンの歌が流れたきた。独り言のような歌い方、飾らない曲調。内容は詳しくわからなくても、いつも聴かせる。

大阪駅前がよく路上ライブをやっている。人によってはそれなりにファンがついている。CDも売っている。長い信号待ちの間、語りや歌と耳に入る。アマでも聴かせるものがあってもいいと思うけど、それがない。

青く、混沌として、若さながらではの瑞々しく清らかさをもとめる感性。『壊れかけのRadio』などを聴くと、誰でもいつか来た道をありありと思い浮かべ、懐かしくなる。

愛、つながり、一人じゃない、そんな言葉が使われ、月並み。それはいいとしても、内からほとぼしりである情感といったものがない。響いてこない。伝えたいメッセージが借り物だとすると、そうなっても仕方ない。

ブルースとは何ぞやと外国人に街頭インタビューをしている番組を見たことがある。端的に表現した人の答、それはPain。苦痛の吐露、苦痛からの解放、そういうものがブルースの根幹。

番組の出演者たちは目を見開き、大きく頷いていた。若いなら若いなりに、老いているなら老いているなりに、身から出た言葉に自分が表れ、時に人をなぐさめ、はげます。

そんなことを考え、書いていたら、パソコンの背、空いた窓からヘンな咳払い。下の方から聞こえてくる。うん？何かいるのかとブラインドを上げて、窓から顔を出したら、猫が三匹、トランク上にいた。猫一家？



2015/6/11 うつぼ公園
(木)

残りバラが雨をつけて





大きな木の下で雨宿りして思いついたことを手帳にメモ、見上げると、大らかな気につつまれている感



2015/6/12 窓下のネコ
(金)

午後から日が照ってきた。室内の温度26度、湿度60%、風がある。じっとしている限りは暑くない。クーラーが故障しているようで、技術の人が来ていた。真夏でなくてよかった。

月曜にわかってから、時々窓から見下ろす。猫たちは、雨が降りだしたらいなくなり、上がったらまた戻っている。猫も小さい間は何にでも興味があるようで、ブラインドの上げる音で上を見るのは子猫だけ。

猫も性格がある。顔つきも違う。猫を飼う妹と住んで、わかった。人間、慣れとはおそろしい。猫なんて！と、嫌っていたのに、そのうち、「ブルちゃん」なんて、言っている。

老いたブルがソファをよいしょ上がり、膝枕のように体を寄せて安らぐ。猫の体温が腿に温かい。こもらも安らぐ。その様子に嫉妬するのか、若いチビが間に割りいろうとする。そうとみるや、ブルはさっと場所を空ける。

突然足がふらつき腰をぬかしたようになったブル。入退院を繰り返し、最期は家で迎えた。チビが後を追ったのもそう遠くなかった。『ゾウの時間ネズミの時間』に「サイズによって時間は変る」。あっけない。

最期は人間もこんな感じだろうと思った。足腰はたたなくなり、自分では何もできなくなる。体や顔をふいてやりながら、もう楽になったらと声をかけたのは人間じゃなかったからか。今は壁に爪あとが残るだけ。



2015/6/14 (日) [『あじさい人びと楽座』](#)

木津川の八木邸。雨も降らず、陽も照らず、梅雨にしてはすごしやすい日曜日。一番気にかかっていたのは当日の天気。雨で蒸し暑ければ、出展者も来邸者も、体にこたえる。これも天の計らいか。







2015/6/15 小さな歩
(月)

梅雨の晴れ間。風もあり、気温も平年並みで、まずまず過ごしやすい。大阪は昨日14日をピークに日の出の時間が遅くなり始めた。ちなみに日の入りのピークは30日。6月22日は夏至である。

昨日日曜、日の出が一番早かったとは気づきにくかった。夜明け前から曇っていた。このまま曇りでいって、と願った。もし陽が照って暑くなったら、屋外の人は体に堪える。

木津川の八木邸であったプチ起業メッセ。わあ、こんなに下準備をしていたんだと驚いた。準備も一つのシミュレーションと念を押してはいたけど、ここまでとは・・・と感心した。

荷物を運ぶのも大変だったろうけど、この日までの準備作業がたぶん一番の収穫ではないか。こう見てもらおう、こうやってもらおう、ならこうしようと、頭の中でいろんなアイデアがわいてくる。

そんな営みが脳から体全体にゆきわたり、心身ともに新しい細胞が生んでいるような、古い細胞もハッと目を覚まし、周りの明るさに喜んで走りまわっているような、そんな感覚を味わったはず。

ほんと小さな歩、されど未来には大きな歩。雨も降らず、陽も照らず、梅雨にしては何ともすごしやすかった昨日。熱心に懸命に目の前にことに臨んだ、天からのご褒美か。

25/6/18 北山の植物園
(木)

ついでがあったので、久しぶりに北山の植物園へ



フウの木がある杜若の池は、なんと、蓮池にかわっていた。





蓮池の周りは紫陽花園





半木の森のそばの池で



やはり京都は違う。大阪城公園やうつぼ公園では感じえない独特の気がある。人を哲学的にさせるものがある。



2015/6/20 野性的知性
(土)

正午すぎから晴れてきた。ここ数日しのぎやすい気温。今日はこれから上がりそう。梅雨に入ってから関西は、今のところ雨の大きな影響はない。あるとすれば7月か。

口永良部島がまた噴火したらしい。昨年の御嶽山、先日の浅間山。この二つの山の距離はどのぐらいだろうと気になった。ネットで調べてみた。そう遠くはない。

全国にどのぐらいあるのだろう火山は……。そう思うとすぐにわかる今は。ネットに全国マップが表示され、一覧できるサイトがあった。こんなにたくさんあるんだ…。

北から南まで、印がいっぱい並ぶ。その中でぽっかり空いた場所、それが近畿、四国だった。みごとに活火山がない。古の都が京都や奈良におかれたということと関係しているのか。

京都の地下は大きな水瓶になっていると、NHKの番組でいつか紹介していた。だから地震がすくないのかと思ったりした。現代のような細分化された科学では観察しえない、古代のグローバルな科学があったと思う。

人間の原始の力、野性的知性というか、そういうものが何かに気づく、見つける。直感や勘はその一端、危険を回避したり、心身をやわらげる術を身につけたり。曖昧なようでツボをついていること多々あり。

2015/6/22 夏至
(月)

朝一番は晴れていたのに、徐々に雲が多くなってきた。今日は夏至。できれば夕方にはまた晴れてほしい。この時期になると、必ず思い出すのが京大のレストランでのこと。

女ばかりで三室戸寺の象鼻杯の帰り。宇治を散歩し、体全体に汗をにじませ、京大のレストランに着いたのは開店時間前。化粧室で顔を洗う者あり、少しは身なりをととのえて開店と同時に入室。

外が明るうちからワインを飲む。至福の時である。『いかがですか?』とソムリエが尋ねる。代表して、『夏の休日、まだ明るいこの時間帯にピッタリ!』。『すばらしい、ありがとうございます』。

女どうしの話はつきない。クラシックな広いレストランに他のお客は一組だけ。アカデミックな空間で、ゆったりと、大らかに過ごす休日の夕暮れ。ほろ酔い気分を外へでて見ると、まだ夕暮れのなごり。

時計台の下から見上げた空は紺碧、まだ暮れきっていない空に星がいくつも輝いて、女たちの夏の遠足をきれいにしめくくってくれた。空を見上げたこの一瞬のことを、毎年思い出す。

2015/6/24 ハードワーク
(水)

梅雨真っ只中、それでも今日も晴れている。ちょっと夏の終わりのような空気感。まったりとして、眠気におそわれる。当階の年代もののクーラー、とうとう力尽きたのか効かず、部屋の窓をあけっまなし。じっとしていれば汗のすることもなく、体には和む気温と湿度のよう。

『人間、自分のサガからはなかなか逃れられないものだとしみじみ思います』、『いやー、ほんと、そうですね、そう思います』。起業した女性どうしの会話。二人とも起業してそれなりの年月が過ぎているから言えること。あっけらかんと言うからには、それを織り込み済みの今の歩み。

自分を受けとめれば、少々のことでは動じなくなる。人にとって意味のあることが自分にとっても同じとは限らないと考えられる。だから、悪あがきがなくなる。つまりは精神的なストレスが少なくなる。ひいては大らかさが出てくる。

簡単なことだけど、そういう流れを掴みとる関所にハードワークあり。二人そもそれを乗り越えてきた。詳細は不明でも、容易に想像はできる。孤独、葛藤、軋轢。そんな局面にめげず今があるのは、自分の想い・志。これからもハードワークは続く。それも今となっては、ドンと来い。

2015/6/27 梅雨前線一休み？晴れた夕空
(土)



2015/6/29 気象通報
(月)

今日は朝からよく晴れている。湿気がなく、カラッとして、梅雨の季節には貴重な一日。土曜の夜から気温が低くなり、昨日の夜は寒いほどだった。ただし明日からは梅雨空が戻るとの予報。

気象の予報ではなく、気象通報を届けてているNHKのラジオ。今は一日一回になったが、夜にもやっていた時にたまたまチャンネルを合わせた。日本だけでなく世界の気象結果を淡々と、延々と告げていく年配のアナウンサーの声に耳が引きつけられた。

これはいつまで続くのかしらと最初は思った。通報の項目は決まっているから、飽きそうなものだけど、なぜかチャンネルを変える気にならない。日本の各地のあとに、『カムチャツカでは・・・』などと、行ったこともない土地の名前や聞いたことのない地名が聞こえてくる。

時々、『天気不明・・・』などと間に入ってくると、不明としかいいようのない状況や設備の具合などが想像されて、聞きとりに起伏が生まれる。単調な語りなのに、見知らぬ地域やその地域近海で働く人たちの様子が何となく頭に浮かんでくる。ラジオのなせるワザ。

『朝のリレー』（谷川俊太郎）の冒頭は、「カムチャツカの若者がきりんの夢を見ているとき、メキシコの娘は朝もやの中でバスを待っている・・・」と続いていく。梅雨真っ只中なのに清々しい日と和の昨日、昼から夕へにつながる午後4時の気象通報が、『朝のリレー』のようだった。

2015/6/30 四天王寺
(火)

所用で天王寺へ出かけ、ついでにちょっと散歩



6月が終わり、7月へ

梅雨に入ってから、それほど雨は多くなかった大阪。どうやら近畿の梅雨明けはおくれそう。